

第4回資源管理方針に関する検討会の 指摘事項について

資源管理方針に関する検討会
～第5回マアジ太平洋系群・対馬暖流系群～

令和7年9月11日(木)

水産庁

目 次

1. 第4回資源管理方針に関する検討会で整理された指摘事項
2. 指摘事項に関する対応の方向
 - (1) 東シナ海で発生した集団を踏まえたマアジ太平洋系群・対馬暖流系群の資源評価・管理手法の改善
 - (2) 資源の上振れに対応したTAC管理の柔軟な運用の検討
 - (3) 配分基準の検討
 - (4) 資源評価・管理に係る周辺国との連携・協力の推進

1. 第4回資源管理方針に関する検討会で整理された指摘事項

(1) 東シナ海で発生した集団を踏まえたマアジ太平洋系群・対馬暖流系群の資源評価・管理手法の改善

長期的な課題として、東シナ海で発生した集団を踏まえた太平洋系群・対馬暖流系群の資源管理手法について、評価も含めて検討してほしい。

(2) 資源の上振れに対応したTAC管理の柔軟な運用の検討

資源評価よりも資源が上振れした際のTAC管理の柔軟な運用について検討してほしい。

(3) 配分基準の検討

次のSH会合までの間に配分基準の見直しについて要望があった際は、SH会合の場で協議をさせてほしい。

(4) 資源評価・管理に係る周辺国との連携・協力の推進

同じ資源を利用する周辺国との連携・協力を進めてほしい。

2. 指摘事項に関する対応の方向

(1) 東シナ海で発生した集団を踏まえたマアジ太平洋系群・対馬暖流系群の資源評価・管理手法の改善

長期的な課題として、東シナ海で発生した集団を踏まえた太平洋系群・対馬暖流系群の資源管理手法について、評価も含めて検討してほしい。

- 
- 引き続き、産卵分布調査、標識放流、遺伝的・生化学的手法による集団構造分析、海流などの海洋環境解析などを実施し、集団内および集団間の動態の実態把握に努める。
 - 今後、研究で明らかになった資源の実態を反映した資源評価を踏まえ、漁獲実態を考慮した上で、管理のあり方を検討する。

2. 指摘事項に関する対応の方向

(2) 資源の上振れに対応したTAC管理の柔軟な運用の検討

資源評価よりも資源が上振れした際のTAC管理の柔軟な運用について検討してほしい。

- 
- 資源の上振れへの対応は、資源変動の大きい資源のTAC管理に共通する課題であり、マサバ対馬暖流系群ではTACの調整ルールを導入しており、また、ブリやカタクチイワシ等において、各資源の実態を踏まえて対応の検討が進められている状況。
 - 本資源の動向や漁獲実態等を踏まえると、現時点で資源の上振れによるTAC数量の調整は必ずしも必要ない状況であると認識しているが、今後資源が減少した後に増加に転じた際には、資源評価の不確実性により漁獲が必要以上に抑えられてしまう恐れがある。
 - このため、マサバ対馬暖流系群で導入されたTAC調整ルールや、現在検討中のブリやカタクチイワシ等での予測を大幅に上回る加入の対策を参考に、ルールの具体的な検討を進めていく方針。

2. 指摘事項に関する対応の方向

(3) 配分基準の検討

次のSH会合までの間に配分基準の見直しについて要望があった際は、SH会合の場で協議をさせてほしい。

- 
- 前回のSH会合の後、数量明示等関係者の意向を確認したところ、試算結果の提示を要請する考えはないことを確認した。
 - 配分基準は、TACを円滑に運用していく上での重要な要素の1つであり、引き続き、関係者との議論を継続していく。

2. 指摘事項に関する対応の方向

(4) 資源評価・管理に係る周辺国との連携・協力の推進

同じ資源を利用する周辺国との連携・協力を進めてほしい。

【韓国】

- 韓国とは、暫定水域の一部において韓国側の漁場の占拠の問題等が課題となっており、相互入漁等を議論する日韓漁業共同委員会は2016年以降、中断している状況。
- そのような中でも、両国が共通して利用する水産資源について資源評価に必要なデータの共有等がなされるよう、研究者間の会合の開催を働きかけてきたところであり、今後も継続して働きかけていく。

【中国】

- 中国とは、日本海における中国漁船の違法操業問題が課題となっており、相互入漁等を議論する日中漁業共同委員会は2017年以降、中断している状況。
- 他方、本年5月に行われた日中漁業当局間交流に双方の行政・研究機関が参加し、その中では資源管理を行う重要性、そのための連携・協力の必要性について意見が一致したところ。引き続き、連携・協力の推進に努める。